

陳 情 文 書 表

受 理 番 号	陳 情 第 1 3 号
件 名	税金の無駄遣いとなるBRT計画の白紙撤回，見直しと借金を減らすことを求めることについて
要 旨	<p>一昨年，平成 25 年 12 月議会の本会議では，連節バスの購入契約議案について反対議員による一般質問での市長，執行部とのやりとり，そして同じく反対討論では連節バスの必要性が一かけらもなく，採決に値しない本来取り下げるべき議案であると結論づけられました。そして採決の結果は 32 対 20 で議案は可決されました。しかし賛成した議員は，本当に市民そして納税者の代弁者なのかと大きな疑問を感じます。</p> <p>その後昨年 11 月の市長選挙では，BRT 計画が最大の争点となりました。その結果は，BRT 白紙撤回と BRT 中止各候補の得票が合わせて 64%で，BRT 賛成，篠田候補の得票 36%を大きく上回り，BRT 白紙撤回，BRT 中止の民意が示されました。</p> <p>また篠田市長が選挙結果の民意を，市民が誤解しているとして新潟市が行った市民意識調査では，1 回目 BRT 反対 60%，賛成 14%，2・3 回目も同様の結果でした。それでも篠田市長は BRT 計画をそのまま続行し，このことは西蒲区のまちづくりトークで，私が市長に当選したとして続行を正当化しましたが，これも疑問を感じます。</p> <p>一つ戻って，前記平成 25 年 12 月 20 日の本会議の反対討論で結論づけられた内容は以下です。</p> <p>BRT 計画は連節バスの必要性が一かけらもありません。普通バスでも連節バスと同じく国から補助金が出ます。朝のピーク時の萬代橋を越える 797 人の乗客輸送は，直行便も合わせ普通バスの運行で乗り残しなく 1,500 人の乗客を運べます。</p> <p style="text-align: right;">(裏面につづく)</p>
付 託 年月日 委員会	<p>第 1 項 } 平成 27 年 6 月 18 日 第 4 項 } 環境建設常任委員会</p>
受 理	平成 27 年 6 月 15 日 第 1 5 2 号

そして普通バスの運行により道路改良や専用レーンもいらず、税金の無駄遣いをしなくて済みます。なおかつ、BRT計画は第1期に30億円、第2期に40億円、合わせて70億円が予定されており、明らかに税金の無駄遣いとなる計画です。

また、連節バス試乗会に参加して、停留所での運転手による降車運賃精算業務が終わり、その後に運転手が行う車椅子乗客の乗りおり介護にはあわせて5分くらいを要し、BRTがバス高速輸送システムの名称に値しないことがわかりました。

よって議会に以下を求める陳情をします。

記

- 1 民意を尊重し、BRT計画を白紙撤回、見直しして普通バスの運行による新バスシステムを進めること。
- 2 新潟市には返済不可能と思えるような1兆円もの借金があるため、なおのことBRT計画は、普通バスの運行に切りかえて借金を減らすこと。
- 3 専用レーンなしでの6月7日の連節バス試乗会のとおり、東大通の中央分離帯を撤去して専用レーンを、さらに萬代橋にその他専用レーンをつくらないこと。
- 4 BRTのバス高速輸送システムの名称を現実に合わせた名称に変更すること。